「空調は不要」と認識されてきた施設を含め、あらゆる人間活動の場において適切な温度環境の管理が求められるようになってきた。

「工場用ゾーン空調機」は、様ざまな規模や用途の施設において、いずれも除湿空気を広く拡散させることで快適環境を実現することができる。

大空間を隅々まで効率良く空調することを目的に開発された「工場用ゾーン空調機」が普及することにより、健康で活力ある労働環境づくりが広まることが期待される。

静岡製機

気化式冷風機「RKFシリーズ」

電力とCO₂を85%削減

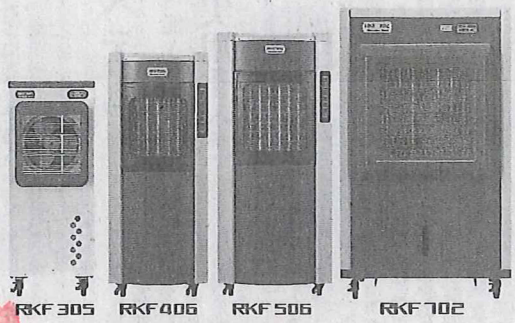
水を気化させ涼風を遠くに

静岡製機（本社・静岡県袋井市、社長・鈴木直二郎氏、産機営業部＝静岡県袋井市諸井一三〇〇、☎0538・23・2825）の「RKFシリーズ」は、水の気化で周囲温度より五℃低い涼風を出す、熱中症対策に最適な気化式冷風機。

タンクの水をポンプで汲み上げて冷却エレメントに注ぎ、冷却エレメントの水が空気と接触して気化、この冷却された空気を大型ファンにより遠くに送ることで冷風を出す。

一人用で冷房能力二・七㌔㌍（五十㌶）／三・〇㌔㌍（六十㌶）の「RKF305」、二～四人用で同三・九㌔㌍（五十㌶）／四・四㌔㌍（六十㌶）の「RKF406」、四～六人用で同七・五㌔㌍（五十㌶）／八・五㌔㌍（六十㌶）の「RKF506」、大型で同十五㌔㌍の「RKF702」は、様ざまな規模や用途の施設において、いずれも除湿空気を広く拡散させることで快適環境を実現することができる。

大空間を隅々まで効率良く空調することを目的に開発された「工場用ゾーン空調機」が普及することにより、健康で活力ある労働環境づくりが広まることが期待される。



RKFシリーズ

鎌倉製作所

涼風給気×最適排気による快適空間を提案

低コストで抜群の防暑対策

クーレックスウェアに冷水循環させ冷却

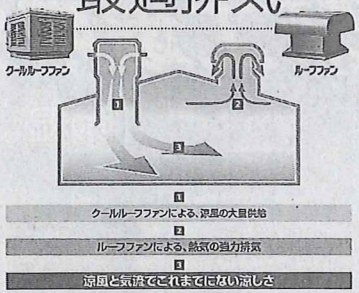
産業用換気装置の総合メーカー、鎌倉製作所（本社・東京都港区北青山二の七の一、社長・堀江威史氏、☎03・3403・4353）では、工場などの暑熱対策に向けた製品・技術を数多く取り揃えている。

その一つが屋上換気扇「ルーフファン」と、気化放熱式涼風給気装置「クールルーフファン」を組み合わせた「涼風給気×最適排気」による快適空間の提案。

「ルーフファン」は、百万台以上の納入実績を誇る屋上換気扇のベストセラー。強制排気、強制給気、自然換気の三タイプに材質や環境適応モードのかけ合わせからなる豊富なラインアップで、工場・事業所のさまざまな換気ニーズに応えている。

ROOF FANシリーズは

涼風給気×最適排気



涼風給気×最適排気による快適空間実現のイメージ

「クールルーフファン」は、水の気化を促進させる特殊なエレメントを内蔵した給気装置。暑い外気をひんやりとした涼風に変えながら給気できる。電力が必要なのはファンとポンプだけなので、エアコン主体の換気計画と比較してコストパフォーマンス抜群の防暑対策を実現できる。

二つの製品を組み合わせた「クールルーフファン」と同じ原理を利用しながらシロッコファンを搭載した上位機種。水の気化放熱を利用した冷却エレメントで、外気をクリーンな涼風に変えて大量供給する。ソーン冷却、スポット冷却、製品冷却・機器冷却などさまざまな用途に利用できる。

「クリーンファン」は、中性能フィルタを装備し、クリーン機能を強化した給気ファン。ピータ付きの温風形もラインアップしている。

作業空間の快適性を実現する産業用送風装置として、同社は強力送風機、搬送ファン、涼風扇、有圧換気扇、温風暖房装置など、さまざまな機種を取り揃えている。

このうち「ジェットジム特大風量形」は、業界最大級の七百六十立方㍍／分の大風量、最大到達距離七十㍍を実現した強力送風機。キャスター付きのボディで、移動はもちろん、風向き変更も容易にできる。

特に今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で設備投資を見直す例が多く、当面の暑熱対策として工事不要・短納期で導入可能な強力送風機の引き合いが増えているとのこと。窓や出入口などの開口部に強力送風機を設置することで、送風機から離れている作業者でも風を感じながら快適に作業できるとの好評だ。

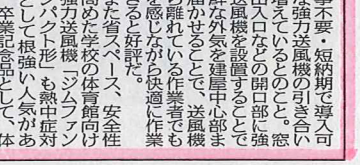
また省スペース、安全性を高めた学校の体育館向けの強力送風機「ジムファンコンパクト形」も熱中症対策として根強い人気がある。卒業記念品として、体育館などでの式典向けに、卒業生から学校へ寄贈される例も多いという。

近年、熱中症対策として、作業服にファンを仕込んに導入されているが、同社では、チラーを用いたウェアタイプの冷却システムを開発し、市場に提供している。

「クーレックス」は、冷水をウェア内に循環させることで、酷暑現場で作業する人の身体を効率的に冷却する次世代のクールウェア。小型チラーで作った冷水をホースで繋いだウェアに循環させ冷却する仕組みで、冷水は状況に合わせ七℃～二十℃まで温度調節ができる。

汎用タイプの「クーレックス・ワン」のほか、高温下での作業を強いられる作業者を強力に冷却する「クーレックス・プロ」、一台のチラーから配管を室内の天井に通し、配管から下げたホースで複数の作業者のウエアに冷水を供給する「クーレックス・マルチ」、さらにはバックパックタイプの小型チラーから冷水をウエア内に循環させることで、自由に動き回ることを可能にした「クーレックスM131」をラインアップしている。

ジェットジム特大風量形


クーレックス・ワン

協三エアテック

超軽量空調ダクトを開発

熱中症と感染症を同時解決

滴下式TK－DCDシリーズ

を組み合わせた熱中症対策用の屋外冷房設備を、写真のように大阪市旭区に展示しており、随時実物を見ることができる。

ダクトを支えているのはのぼり旗ポールで、軽量たせることができる（オプション）。

二方式が選択でき、「オゾン水方式」では、耐久性い殺菌効果を得ることができる。「殺菌剤注入方式」では、次亜塩素酸より優れた殺菌効果を得ることができる。

気中に噴霧し、より強い殺菌効果を得ることができる。

特に今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で設備投資を見直す例が多く、当面の暑熱対策として真夏の屋外を快適に過ごせる街づくりに貢献することを目的として、日建設計、銘建工業（本社・岡山県真庭市、社長・中島浩一郎氏）、光栄（本社・大阪市、社長・阪上丈二氏）、村田製作所（本社・京都市長岡京市、社長・村田恒夫氏）、三菱電機（本社・東京都千代田区丸の内二の七の三、社長・杉山武士氏）、ユニチカ（本社・大阪市中央区、社長・中島章氏）、ユニチカトレーディング（本社・大阪市中央区、社長・中島章氏）、ユニチカ繊維